

深志神社のあれこれ 《3》

— 絵葉書のこと —

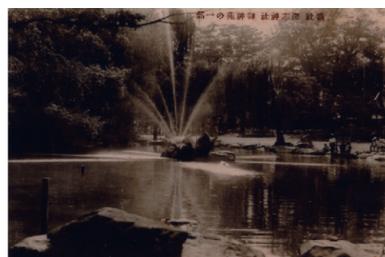
神社の昔の具体的な様相を知ることで資料として写真や絵図類が貴重です。当社については天保十四年（一八四三）刊の「善光寺名所図会」に掲載されたのが、もっとも遡るものです。（社報3号掲載。）

二種が知られており、紹介しましょう。なお、これらは松本市博物館所蔵のものを提供いただきました。ご高配に厚くお礼申しあげます。

公園は明治三十二年に開かれ、のち整備されて四十三年四月開園しました。そして大正七年には深志神社に献納されて神苑となりました。これらから絵葉書の年代は明治四十三年から大正元年の間と推されます。最も遡る画像です。

② 三枚組  
① 縣社深志神社一の鳥居  
② 縣社深志神社御本殿  
③ 縣社深志神社御神苑の一部年代は「県社」とあるので昭和三年六月以降で、おそらく列格を記念して作成されたものと推されます。

二組共に、明治末から昭和初めにおける当社の社殿や境内の様子を知ることのできる貴重なものです。



梅鉢紋 天満宮御神紋

はすこれに夕世のあふて志深 きかふはなる雲の神あてみ天 園公志深 社神志深木松

①

②

探しています！

古い写真や絵葉書類を所蔵しておられませんか  
社報で紹介するとともに、将来の神社誌編集にも活用する予定です。  
関係資料をお持ちであれば、ぜひ神社へご一報ください。

あらたまの年を  
神さまと共に

お家に迎えましょう

あらたな「お伊勢さま」と氏神深志神社の御神札を  
お祀りしてお正月を迎えましょう

お宮で祈りましょう

神さまの新しいお蔭を戴いて心豊かに二年を過ごしましょう

来たる年、ご家族の皆様方が神さまに見守られ、お蔭をいただくために  
平安無事、幸せに過ごされますことをお祈り申しあげます。

毎年十二月に入ると、深志神社では新年を迎えるにあたりお祀りする天照皇大神宮（神宮大麻・お伊勢さま・歳神さま・お正月さま）と神社（深志神社大麻）の御神札の頒布始祭が執り行われます。

— 新年初祈願祭 —

新しい年の始めに、貴家・貴社が今年も無事で幸多き一年でありますように、へ家門繁栄 社運隆昌を祈願する新年初祈願祭を御神前にて元旦よりご奉仕致します。



企業・会社の初祈願祭

— 新年の授与品 —

お神札は神棚にお祀りして一家の安全など、お守りは一人一人が身につけて切実な願いなどを祈ります。ともに神さまが身近で見守つておられます。授与所でお受け下さい。



家内安全の神札

— 節分祭のご案内 —

節分とは立春の前日に、諸々の邪気を追い払い、福を招き入れる冬の祭事です。  
2月3日、午後2時から豆炒り式、5時に節分祭を斎行。引き続き社殿前特設舞台上で年男・年女また賛助いただいた福男・福女による豆撒き式が賑やかに行われます。豪華な福投げの景品も数多く用意しています。また子供コーナーを設けています。



■ 賛助者  
（福男・福女）の募集  
○ 氏子町内外の崇敬者の方々から賛助者を募っています。  
（一般賛助者）四五百円  
（特別賛助者）六千円・一万円

■ 奉仕年男・年女の募集

○ 子年生まれの方、厄年慶祝の方及び特別奉仕される方などにご奉仕願っております。  
（初穂料）二万五千円  
問い合わせ・お申し込みは1月30日迄に社務所まで。

後記

▼ 本号ではへ深志神社のあれこれとして社号額・古い画像類を重点に取りあげました。  
▼ よい年をお迎えください。

ふかし 深志神社社報 第5号  
発行日 平成19年12月1日  
発行所 深志神社社務所  
〒390-0815  
松本市深志3丁目7番43号  
電話 0263-32-1214  
FAX 0263-32-5908  
印刷 (株)日本広告

R100 古紙配給率100%再生紙を使用しています。



深志神社社報 第5号

平成19年冬号

ふかし



### 松本深志舞台保存会だより《4》

#### 「日本のまつり」出場と高円宮妃殿下ご来臨

本年は松本市市制施行百年。さまざまなイベントが企画され、舞台への出場要請も多く、多忙な年となりました。

ことし7月28・29日の「日本」のまつり2007 in松本は今回の記念イベントの中でも目玉の一つで、要請を受け7台の舞台が出場しました。

市民・芸術館前には改修竣工間もない小池町と中町二丁目舞台が出演し、来場者を迎えました。深志舞台のすばらしさを多くの方々に堪能いただきました。



舞台をご覧になれる高円宮妃殿下

また、「日本のまつり」開催にあたり大会の主催団体名譽総裁の高円宮妃殿下久子様が高円宮社境内にご来臨され、親しく舞台を観覧なされました。まつり文化の保存顕彰育成事業として深志舞台とその舞台保存活動を視察されるためです。



「日本のまつり」会場入口で

舞台保存会では5台の舞台を境内に並べ、妃殿下をお迎えいたしました。

妃殿下はたいへん気さくな方で、貴人としての気取りなどもなく、VIPの来臨で緊張していた保存会役員の心をほぐされました。各町の役員から

ら舞台の説明を受けられ、お囃子の子供たちと記念写真を撮られるなど、和やかな視察となりました。

高円宮家と妃殿下の弥栄を心からお祈り申しあげます。

#### お囃子保存事業の開始

9月24日深志神社天神会館にて「深志舞台のお囃子を聴く夕べ」が開かれました。子供の数の減少など、舞台、囃子の存続が困難になっている現状から、今一度16町会のお囃子を確認し、これからのお囃子保存の方法を探るためです。

「夕べ」には保存会員だけでなく、里山辺のお囃子関係者、市会議員、教育委員会関係者など多くの方の参加をいただき、にぎやかに開催されました。

茶碗酒片手に山辺の笛師が笛を吹き、互いに太鼓を敲き比べるなど大変楽しく、また意義深い会になりました。これを機会に新たなお囃子復活事業が始まります。どうぞご期待ください。

### 祭礼幟の奉納

七月の天神祭りにあわせて、もとの庄内地区である中上(巾上町・中・西・南)と清水(東・中・西)の七町会より祭礼幟二張が新調、奉納されました。格別のご厚志に篤く御礼申しあげます。

これまでの幟は昭和二十七年に両地区より奉納され、近年は補修しなから使っていました。傷みがひどくなつたため五十五年ぶりに新調されたものです。現在の染技術で、白木染工場(島内)によりこれまで同様に複製されました。長さ約八メートル、幅約八十センチで、従前通り正面参道、神楽殿前の両脇に立てられました。



文句は「健命神威垂不朽」(健命へたけみなかたのみごとく)の神威は不朽に垂れる」と菅公靈徳播無窮(菅公(菅原道真)公の靈徳は無窮に播く)と、御祭神の御神徳を端的に表しています。

揮毫者は、当地方の著名な書家であった松本市里山辺鎮座須須岐水神社社家・上條義守氏(昭和42年死去)です。



なお、毎年の例祭に際して、巾上地区からは提灯が拝殿両脇に、清水地区からは拝殿正面に提灯三張が奉獻される例となっています。これは、当社創建以来の氏子地区である由縁によるものです。

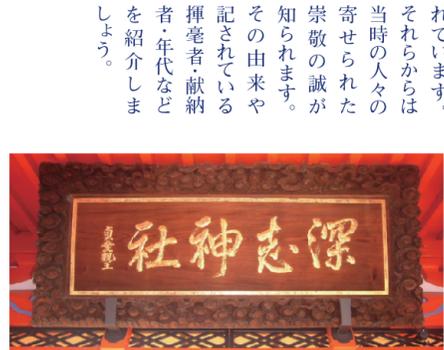
### 深志神社のあれこれ《2》

#### 社号額のこころ

全国の神社では、神社の称号である社号を扁額にして本殿・拝殿・鳥居などに掲げています。当社にも江戸時代以降に奉納された扁額が何種類も残されています。

当社の社号名には経緯があります。まず建御名方富命(諏訪明神)をお祀りする宮村宮が創建され、のち江戸時代になり菅原道真公をお祀りする天満宮が鎌田から勧請され、二社の御本殿となりました。

そして「社をあわせて称する場合、宮村両社・宮村大明神・深志天神等と称されていましたが、天保十二年(一八四一)



二月に、正式名称を「深志神社」とすることが、京都の神祇道管領長上である吉田家から認められました。

このような御由緒、二御本殿などにより、幾種類かの社号額が造られています。

それらからは当時の人々の寄せられた崇敬の誠が知られます。その由来や記されている揮毫者(献納者)年代などを紹介しましょう。



2 「深志神社」(横)

○現拝殿破風下に掲げます。参拝者の目によく触れます。格式あるもので、揮毫された伏見宮貞愛親王は明治四年親王宣下を受け、貞愛と賜名。八年陸軍中尉、三十七年大将、大正四年元帥に列しました。明治天皇・大正天皇の信任篤く、皇族の長老として重任を果たされました。大正十二年、六十六歳で逝去。全国の多くの神社号等を揮毫されています。

(表・刻銘) 貞愛親王  
(裏・墨書) 「神社由緒を記す」  
明治二十年七月廿五日  
祠官 牟禮 鎮  
寄附 石田周造  
高美甚左衛門  
工師 久須本喜平  
影師 清水虎吉  
同 久司大四郎  
昭和八年六月廿五日  
塗替 小川久吉

#### 3 現在の拝殿内掲額の様子

4 「宮村宮」(横)

(表・刻銘) 神道長下部良長印  
(裏・墨書) 奉掛御神前  
御武運長久  
国家安全  
町内繁栄  
子孫長久  
牟禮阿波邦白  
河辺与兵衛盛敬  
肝煎孫七喜之  
世話人「五十数名・略」  
此額面 吉田下部良長卿  
御真筆河辺盛敬以頂戴寫之于天保十二年辛丑年十月十四日



### 斎館と境内の改修・整備

1 「宮村大神」(縦)

(裏・墨書) 「三十二名氏名・略」  
郷社深志神社  
神職 牟禮満丸邦教  
世話人 田中傳兵衛  
田中文治郎  
大工 水口吉兵  
○年代は大正七年以前。



11 「威徳天満宮」(縦)

(裏・刻銘) 奉獻嘉永元年戊申冬十一月廿五日  
伊藤隆(義方)  
武埜周治保貞  
伊藤讓齊 修



2 「天満宮」(横)

(表・刻銘) 慶見(恐)謹書(印)  
(裏・墨書) 奉納御神前  
天保九戊戌歳  
七月廿五日  
願主宮村中



3 深志斎館の大屋根葺き替え  
社務所を含む深志斎館は昭和39年の竣工になります。爾来44年、祭典の控え室や直会場として、また結婚式を始め各種宴会・会合の会場として多くの皆様にご利用いただけてきました。

ところが経年劣化のため屋根の傷みが激しく、近頃ではあちこちで雨漏りがするよう事態となっていました。

神社では昨年より検討委員会を設け、建替も含め種々検討した結果、屋根の全面葺替を決定し、9月3日足場組みより工事に取り掛かり、10月末無事に竣工しました。大屋根の葺き上げ面積は約450㎡、



竣工した斎館屋根

銅板一文字葺き、施工は高宮の(有)堀地板金工業所が行いました。時節柄、銅をはじめ金属価格が高くなり、委員会でも慎重な検討を要したところでしたが、「一みの甲」など独特の曲線形状を持つ神社建築では、他に代わる金属素材はなく、銅板による葺き上げとなりました。おかげで素晴らしい仕上がとなりました。黄金色に美しく輝いている大屋根をぜひご覧ください。

また、あわせて雨漏りにより天井の傷んだ斎館二階「瑞垣の間」を改修しました。壁面も化粧直しをし、爽やかな広間となりました。会議を兼ねた宴席などにご利用ください。



斎館屋根葺き替えの視察



整備された駐車場



改修された瑞垣の間

9 「天満宮」(縦)

(表・刻書) 就官書 玄龍(印)  
(裏・朱書) 文化五戊辰年九月九日  
再興 藤岡元明



12 「天満宮」(縦)

(表・刻書) 前右大臣愛徳公孫(定)印  
(裏・墨書) 安政四丁巳歳九月九日



#### 境内駐車場の整備

今春、神社入口付近の私有地を取得しました。現在は主に職員用駐車場として活用していますが、将来は周辺を整理し参拝者用駐車場として整備する予定です。これを契機に車輛を制限し、美しく参拝しやすい境内の整備を進めたいと思います。